

安全

1-5 日本と外国の「安全」に対する考えの違いを説明することができますか？

イザヤ・ベンダザン著の「日本人とユダヤ人」という本がある。この中で、「日本人は安全と水は無料で手に入ると思いこんでいる。」という文章がある。これは日本の安全文化水準が高いために生じた言葉と解釈できる。日本は、その水準の高さによって「危険源」や「リスク」に関する知識が乏しいことは事実である。

「リスク」は次の式で表すことができる。

$$\text{リスク} = \text{危害（損失）の発生確率} \times \text{危害（損失）のひどさ}$$

さて「安全」とは、4で「リスクがないこと」と説明した。上の式に「リスクがない」を意味するためには、「危害（損失）の発生確率」を0にするか、「危害（損失）のひどさ」を0にする必要がある。しかし現実的に、どちらも0にすることは不可能であると考えられる。これらを0にするためには、利益を与えてくれる「危険源」に近づかないことを意味する。

つまり「安全」は現実的には存在しないことになる。「リスク」を考える上で、リスク0の安全を「絶対安全」と呼ぶ。日本は、「絶対安全」が「安全」だと考えている。

一方、外国ではリスクの概念があるため、リスクを0にすることはできないと知っている。そのため外国では、「安全」とは「限りなくリスクを0に近づけた状態」と考えている。

つまり、「安全」は「限りなくリスクを0に近づけた状態」と考えた方が論理的であり現実的に安全を確保することができる。

日本は、リスクが0である「絶対安全」を安全だと考えている。一方、外国では、リスクを限りなく0に近づけた状態を安全だと考えている。